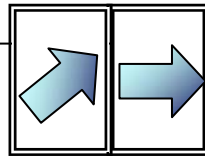


経済フローチャート

～日本経済の現状と6ヶ月見通し（2月4日時点）～

国内景況感

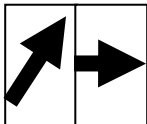
公共投資など国内の政策効果は一巡するものの、輸出は引き続き増加傾向を辿ることから、外需を中心に景気の緩やかな持ち直しが持続する。しかし、設備や雇用の過剰感が残存するなか、内需の回復に多くは期待できず、景気回復は緩やかなものにとどまると予想される。



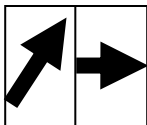
現状 6ヶ月後

(2010年1-3月期) (2010年7-9月期)

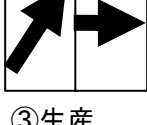
①世界経済



②輸出



③生産



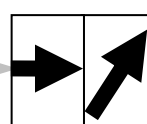
④企業収益



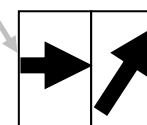
⑥雇用・賃金



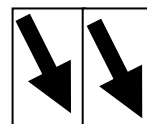
⑦個人消費



⑧住宅投資



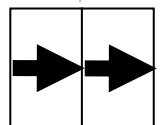
⑨公共投資



⑤設備投資



国内需要



⑩物価

(注) 矢印の方向は、各種関連統計、当社経済見通しなどを勘案して、判断している。

	コメント
①世界経済	<ul style="list-style-type: none"> ・世界景気は、2010年4－6月期にかけて景気対策の効果に加えて、循環的な動きの強まりによって拡大傾向が持続しよう。2010年後半は金融問題が尾を引き力強さに欠ける中、景気対策の押し上げ効果が弱まり、減速すると見込まれる。 ・米国経済は、2010年前半に景気対策効果によって住宅投資の拡大、政府支出の増加、在庫調整の進展によって、潜在成長率である前期比年率+2.5%を上回る成長が見込まれる。2010年後半には金融問題による景気抑制圧力が続く中、景気対策の息切れにより、鈍化すると予想される。 ・ユーロ圏経済は、海外景気の回復、景気刺激策によってプラス成長が続くものの、金融問題への対応の遅れによる信用収縮、低い水準のマインド等が景気回復の障害となり緩やかな拡大となっている。2010年も同様の動きが続くと見込まれる。 ・アジア経済は、金融緩和や歳出拡大を伴う内需刺激策、世界景気の影響を受け、2010年も中国主導で堅調さを維持すると予想される。
②輸出	中国景気的好調持続に加え、米国経済も持ち直すなど、海外経済が回復しており、輸出は改善している。先行きも改善傾向が続く見込みだが、在庫調整進捗に伴うリバウンド局面が一巡することから、増加ペースは先行きやや鈍化する可能性が高い。
③生産	在庫調整の進展や輸出増加を背景に、生産は持ち直している。先行きは、輸出の増加ペースが鈍化していくことから、生産も増勢が鈍化すると予想される。
④企業収益	生産増加やコスト削減を背景に、企業収益は持ち直している。先行きも、輸出や生産の緩やかな増加などに伴い、企業収益は回復していくと予想される。
⑤設備投資	企業収益や稼働率の持ち直しに伴い、設備投資の減少も歯止めがかかりつつある。先行きは、しばらくは設備過剰感の強い状況が見込まれることから、設備投資の回復も緩慢なものにとどまると予想される。
⑥雇用・賃金	生産活動や企業収益の持ち直しなど景気回復の影響が波及することで、雇用や所得は悪化に歯止めがかかりつつある。先行きは、売上高の水準が低い中で雇用過剰感が残存することから、雇用や所得の回復は緩慢なものにとどまると予想される。
⑦個人消費	雇用や所得の悪化が続くなかで、政策効果が一巡することから、1－3月期の個人消費は減速が予想される。2010年度には子ども手当等により可処分所得が下支えされるため、消費の底割れは避けられるとみられるが、停滞が続く可能性が高い。
⑧住宅投資	雇用や所得の悪化や金融機関の融資態度の厳格化による資金調達難などを受けて、住宅投資は極めて低い水準で推移している。先行きについては、在庫調整の進展や各種住宅取得支援制度の効果などにより、住宅着工は緩やかに持ち直すと予想される。
⑨公共投資	政府による公共事業の一部執行停止の影響によって減少基調に転じる可能性が高い。先行きについても、2010年度当初予算で公共事業関係費が大きく削減されることから、減少基調が続くと予想される。
⑩物価	石油製品価格の低下幅が縮小することからマイナス幅が縮小しているが、景気悪化に由来する物価下落圧力は根強い。2010年度も物価下落が続くだろう。